

「患者特性調査」集計結果

調査方法

1. 調査対象

1-1. 母集団

	母集団		
	病院数	病棟数	病床数
(a)療養病棟入院基本料(老人療養病棟入院基本料)を算定している病棟	3,510 病院	4,807 病棟	179,940 床
(b)療養型介護療養施設サービス費を算定している病棟	2,392 病院	3,283 病棟	168,639 床
(c)特殊疾患療養病棟入院料(1、2)を算定している病棟	515 病院	720 病棟	32,529 床
(d)一般病棟入院基本料(老人一般病棟入院基本料) 群3を算定している病棟	1,378 病院	2,179 病棟	98,074 床
(e)回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している病棟	478 病院	560 病棟	25,583 床

資料：平成 15 年 7 月 1 日 医療課調べ

1-2. 抽出条件

第一次抽出 - 1：調査対象病棟を有する病院を全件抽出

図表 条件

- * 療養病棟入院基本料を算定している病棟 = (a)
- * 療養型介護療養施設サービス費を算定している病棟 = (b)
- * 特殊疾患療養病棟入院基本料(1、2)を算定している病棟 = (c)
- * 一般病棟入院基本料(老人一般病棟入院基本料) 群3を算定している病棟 = (d)
- * 回復期リハビリテーション病棟入院料を算定している病棟 = (e)

第一次抽出 - 2 : 層化基準による該当病院の抽出

図表 層化基準

	層化基準として採用する理由	備考
病 院 類 型	・ 患者特性調査の結果（入院患者の違い）コスト構造の違いに対する影響を勘案。	・ 病床種類の組み合わせにより病院類型を設定。 * 療養病床のみ * 療養病床と他の病床（一般病床等）の組み合わせ
所 在 地	・ コスト調査結果に対する所在地の物価等の影響を勘案。	・ 使用する区分は、介護報酬における「厚生労働大臣が定める1単位の単価」における地域区分とした。 * 特別区及び特甲地 * 甲地 * 乙地 * その他
病 床 規 模	・ コスト調査結果に対する規模の影響を勘案。	・ 病院全体の病床規模を用い、200床未満 / 200床以上の区分を設定。

第二次抽出：病院長により調査対象病棟を決定

自院の病棟から原則 2 病棟の抽出を行った。また、特殊疾患療養病棟等明らかに異なる性質の病棟で構成されていれば、最大 3 病棟までとした。なお、全ての病棟の患者特性が同じである場合には調査対象は 1 病棟とした。

1 -3 . 抽出結果

図表 抽出件数

算定入院料種別による病棟区分	一般病棟との併設		許可病床規模		地域区分				計
	無し	有り	200床未満	200床以上	特別区・特甲地	甲地	乙地	その他	
療養病棟入院基本料	17	15	25	7	3	3	2	24	32
療養型介護療養施設サービス費	10	3	8	5	1	1	2	9	13
特殊疾患療養病棟入院料（1、2）	8	7	10	5	2	0	4	9	15
一般病棟入院基本料Ⅱ群3	0	16	13	3	3	0	1	12	16
回復期リハビリテーション病棟入院料	4	10	9	5	4	1	1	8	14
計	39	51	65	25	13	5	10	62	90

1 -4 . 本資料の集計対象

- ・ 本資料は、46 病院を集計対象とした。これは、平成 17 年 4 月 28 日時点において事務局からの照会に対して回答のあった病院を対象としている（グラフ作成分）。
- ・ なお、照会は病棟単位としているため、調査対象でありながら一部の病棟が照会に対し回答を保留にしている（遅れている）病院は集計対象外としている。

2 . 調査方法

- ・ 調査基準日(平成 17 年 2 月 4 日もしくは平成 17 年 2 月 28 日)に調査対象病棟に入院している全入院患者に対し、病棟看護師が関連職種と情報交換の上記入。
- ・ 評価対象期間は、調査基準日を含む 3 日間の状態を評価。調査基準日時点で在院日数が 14 日以下(新規入院患者)は、調査基準日から 2 週間後に再度評価を実施。
- ・ 調査方法についての説明は調査実施説明会において病棟代表者に対し実施した。
- ・ 調査票は必要部数を調査事務局より郵送。
- ・ 対象病棟に調査票到着後、調査事務局より派遣したサポート要員が、患者番号等を転記し事前準備を行った。
- ・ 調査終了後は、調査事務局に郵送にて返送。

3. 調査項目

A. 基本属性				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
1	性別	FS 3		7
2	年齢	FS 4		8
3	在院日数	FS 6		9
4	入院する前の居所	1		10
5	入院した背景	2		11
6	障害者手帳の保有状況	7,8,9		
7	退院（転棟）先の見通し	1		
8	退院（転棟）までの日数	2		
9	家族等への介護の期待	4		
B. ADL・認知症の状況				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
10	要介護度	5		12 -17
11	厚生労働省「障害老人の日常生活自立度判定基準」	6		18
12	厚生労働省「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」	7		24
13	ADL 自立度	1		19 -23
14	ADL の変化	2		
15	立ち上がり	3		
16	片足での立位保持	4		
C. 記憶・認知の状況				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
17	C P S	(複合)		25
18	意識障害の有無	1		26
19	短期記憶の状況	2		
20	日常の意思決定を行うための認知能力	3		27
21	せん妄の兆候・混乱した思考・意識	4		28
22	認知状態の変化	5		
D. コミュニケーションの状態				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
23	自分を理解させることができる	1		
24	コミュニケーションの変化	2		
E. 気分と行動の状況				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
25	うつ状態、不安、悲しみの気分の兆候	1		
26	問題行動の有無	2		29 -35
27	問題行動の変化	3		

F. 症状				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
	28 症状の種類	1		
	29 痛みの有無・頻度	2		
	30 状態の安定性	3		36
	31 体重の変化	1		
G. 疾患名				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
	32 疾患名(うち主傷病名)	1,3		37 43
	33 主傷病発症後経過日数	5		
	34 感染症名	2		
H. 提供されている医療の内容				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
	35 医師による直接医療提供頻度	3		44
	36 看護師による直接医療提供頻度	4		45
	37 医師の指示変更の頻度	4		
	38 注射・点滴を受けた日数	1		
	39 注射・点滴の種類	2		
	40 処置・治療の内容	1		46 52
	41 検査の種類別実施状況	5		
	42 麻酔の種類別、手術の実施状況	6		
I. 提供されている医療の内容(つづき)				
	集計項目	設問番号	今回集計分	pp
	43 薬効別、薬剤使用量			
	44 向精神薬の種類別、使用日数	2		
	45 特定保険医療材料の種類別、使用量			
	46 リハビリテーションの必要性	1		53
	47 リハビリテーションが必要な疾患が発症してからの日数	1		
	48 実施したリハビリテーションの種類	2		54
	49 看護師によるリハビリテーションの実施状況	3		
	50 身体抑制の状況	3		
	51 栄養摂取の方法	2		55 57
	52 衛生材料等の種類別、使用量			